

事務事業名	尖石遺跡範囲確認調査事業	事業期間	2017 ~	年度	係内番号	12
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0101	尖石遺跡の保全と維持管理の充実		

予算事業名	尖石遺跡範囲確認調査事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	12
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
(簡潔にわかりやすく)  
平成27年度に策定した特別史跡「尖石石器時代遺跡」の保存管理計画にしたがい、尖石遺跡の西への広がりを明らかにして、史跡を適切に保存し、次世代に継承するため、史跡の西に隣接する民有地と市有地を対象に確認調査を実施する。

現状と背景  
(どうして)  
平成2年から17年まで実施した史跡整備のための確認調査の成果から、尖石台地に営まれた縄文時代の集落が昭和17年に定めた史跡の西境界を越え、さらに西に広がる可能性が有識者等から指摘されていた。史跡を適切に保存する上で解決しなければならない課題として、保存管理計画に位置づけた。

目的  
対象  
受益者  
(誰のために)  
尖石遺跡  
国民  
対象  
(直接働きかける)  
尖石遺跡  
国民

意図  
(どんな状態にしたいか)  
遺跡の範囲を明らかにする。  
確認調査を通じ、特別史跡の重要性を知ってもらう。

手段・方法  
(どうやって)  
重機と人力により掘削をおこない、縄文時代の竪穴住居址等の有無を確認する。  
発掘体験会と現場説明会を開催し、特別史跡の重要性を知ってもらう

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	発掘調査実施面積	調査面積	m <sup>2</sup>	き損の危険性がある遺構の現況を十分に確認できる発掘調査面積
	2	発掘体験会	実施回数	回	1回	100
	3	現場説明会	実施回数	回	1回	100
変更履歴	H30年度は史跡の拡がりを確認する調査として実施したのに対し、R元年度は斜面崩落に伴うき損の危険性のある遺構の現況を確認するための調査であることから、調査面積の目標値を変更した。					
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	現場説明会参加者の増加	増加率	%	今年度参加者/前年度参加者（50名）	125
	2	試掘調査率	調査率	%	試掘調査面積/国特別史跡指定面積	15
	変更履歴	「縄文の里史跡整備・活用基本計画」の成果指標である試掘調査率を加えた。(史跡外：H30試掘面積863m <sup>2</sup> 、H29試掘調査560m <sup>2</sup> )				

実況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	3,094,530	1,891,216	
財源内訳	国庫支出金	円	1,535,000	931,000			
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,559,530	960,216			
活動指標	調査面積	目標	m <sup>2</sup>	850	200		
		実績	m <sup>2</sup>	863	150		
		達成率	%	101.53	75.00	-	-
	実施回数	目標	回	1	1		
		実績	回	0	0		
		達成率	%	0.00	0.00	-	-
実施回数	目標	回	1	1			
	実績	回	1	1			
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	
成果指標	増加率	目標	%	125	125		
		実績	%	125	80		
		達成率	%	100.00	64.00	-	-
	調査率	目標	%	15	15		
実績		%	5	5			
達成率		%	33.33	33.33	-	-	
備考	令和元年度に新たに実施した「与助尾根遺跡範囲確認調査事業」は、国指定特別史跡の尖石遺跡の確認調査であるため、平成30年度で終了した「尖石遺跡範囲確認調査事業」の事務事業シートに記載した。						

事務事業名	尖石遺跡範囲確認調査事業		事業期間	2017	～	年度	係内番号	12
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係	(尖石縄文考古館)		連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果動指要標因分～析		昨年度に引き続き、同じ12月上旬に現地説明会を開催した。考古館でのロビー展開催、新聞等での報道等により尖石遺跡への関心が高まっていると考えられる。当事業は、史跡外を対象としており、成果指標の史跡内試掘調査率に調査面積を反映することができない。	調査は5月～11月にかけて実施した。現地説明会は10月20日に実施、台風の影響により昨年度より若干人数が減少した。調査は、斜面崩落による史跡破損のおそれのある範囲に限定して実施したため、広い面積の調査にはなっていない。		
価値	総合評価	諸事情により4,500㎡の調査となったが、縄文集落の広がりや構成を考えるうえで重要な貯蔵穴とみられる穴を確認した。発掘体験会の予定時期と調査期間が合わず、体験会の開催を見送った。現地説明会の開催し、尖石遺跡の重要性を広く伝えることができた。	与助尾根遺跡の西端の堅穴住居(宮坂英弉調査・報告済み)が斜面崩落によりき損の危険があるため、確認調査を実施した。新発見の堅穴住居1、落とし穴4基等が確認された。与助尾根遺跡の利用実態に新知見を加えることができ、史跡の価値を高めた。			
	課題	耕作中の畑を借りて調査を行なう場合、耕作者と調査実施期間を打ち合わせるだけでなく、体験会や現地説明会といった多くの方が参加する事業について開催時期等を打ち合わせる必要がある。	史跡の西側への拡がりの範囲をとらえていないことが、史跡整備を進めるうえでの問題となっている。また、民有地を含んでいることも史跡整備を進めるうえでの課題である。			
改革	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	尖石遺跡では、数年後に民有地を借用して、同様の調査を行なう予定である。耕作者及び土地所有者と事前打ち合わせをしっかりと行ない、集落の範囲や内容を明らかにして、特別史跡としての価値を高めることはもとより、発掘体験会や現地説明会を計画通り開催し、地域住民に遺跡の重要性を広く伝えていく。	尖石遺跡では、今後も数年にわたって民有地を借用して、同様の調査を行なう予定である。発掘調査によって遺跡の内容をさらに明らかにし、特別史跡としての価値を高めていく。それに加えて、調査前に耕作者及び土地所有者との綿密な打ち合わせ、調査中と調査後の発掘体験会や現地説明会の実施を通じて、地域住民に遺跡の重要性を伝え、理解してもらえようようにしていく。 なお、本事業は文化庁と協議のうえで進めており、R2年度は発掘調査は実施しない予定。			
作成担当者	山科 哲	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	尖石史跡公園整備事業	事業期間	1998 ~	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用	実行計画の 柱における 指標との 関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0101	尖石遺跡の保全と維持管理の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	尖石史跡整備公園整備事業				会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	04
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	平成27年度に策定した特別史跡「尖石石器時代遺跡」の保存管理計画にしたがい、史跡を適切に保存管理し、次世代に継承すると共に、縄文プロジェクトの核としてまちづくり・人づくりに資する第2期整備と活用について、有識者から意見を聴きながら、市民参加を得て実施する。考古館、青少年自然の森、及び森林計画地と一体となった運営をおこなう。													
現状と背景 (どうして)	平成20年度に史跡整備事業を終了したが、園路、復元住居、標識等の劣化が進んでいる。また、尖石地区に民有地があり、史跡の価値をいかした整備ができていない。こうしたさまざまな課題を解決し、史跡を適切に保存管理すると共に、縄文文化をいかしたまちづくり・人づくりに資する環境を整える必要がある。													
目的	受益者 (誰のために)	市民、観光客												
	対象 (直接働きかける)	市民、尖石遺跡、与助尾根遺跡												
手段・方法 (どうやって)	意 図 (どんな状態にしたいか)	市民や観光客が、八ヶ岳山麓の縄文文化とこれを支えた豊かな自然を体感・体験できる公園とする。市民や環境客が、史跡を安心・安全に利用できるよう管理する。市民に特別史跡の価値、重要性を理解してもらう。												
		史跡の保存管理、整備活用に資する作業（特定外来生物の駆除等の環境整備）を市民参加により実施する。史跡公園内の支障木の間伐や支障木の枝払いを実施する。第2期史跡整備の方向性を示すため、有識者会議を開催する。												
評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	支障木の間伐と支障木の枝払い	進捗度	%	完成率	100							
		2	市民参加による史跡整備作業	市民参加率	%	整備作業への市民参加回数/整備作業回数	100							
	3	史跡公園の巡回点検	実施回数	回	実施回数/12か月	12								
成果指標	変更履歴													
	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
	1	入館者数の増加	年間入館者数	人	計画策定時53,824人	70,000								
2														
変更履歴														

実 施 状 況 （ D O ） 考	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	2,643,752	1,789,552	4,115,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	活動 指標	進捗度	目標	%	100	100	100		
			実績	%	25	25			
		達成率	%	25.00	25.00	—	—	—	
		市民参加率	目標	%	100	100	100		
			実績	%	77	75			
		達成率	%	76.60	75.00	—	—	—	
		実施回数	目標	回	12	12	24		
			実績	回	30	26			
		達成率	%	250.00	216.67	—	—	—	
		成 果 指 標	年間入館者数	目標	人	70,000	70,000	65,000	
実績	人			56,953	54,434				
達成率	%		81.36	77.76	—	—	—		
—	目標		—						
実績	—								
達成率	%	—	—	—	—	—			
備 考									

事務事業名	尖石史跡公園整備事業		事業期間	1998	～	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係(尖石縄文考古館)			連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果要因分析		目標値に届かず前年度実績にも及ばなかったが、前年度実績は八ヶ岳JOMONライフフェス期間中無料入館のため入館者数が増加したと考えられる。H28→H29年度の約6000人の増加に対し、H29→H30年度は約3000人の減少で、無料入館の影響が大きいものの、増加傾向である。	入館者数については、台風の影響等によりH30→R1で2500人の減となった。月別に見ると4月～7月、11月～3月は前年度同月より多く、8月～10月が前年度同月より少ない。夏期シーズンの減少については、原因不明である。		
価値	総合評価	史跡整備作業への市民参加によって、尖石遺跡の価値と保存の重要性の理解度が高まっている。その結果、整備作業に参加した市民が、考古館及び史跡公園へ知人をお連れすることが増えている。	入館者総数は前年度に及ばなかったが、有料入館者数は増加した。また、史跡整備事業への市民参加により特別史跡尖石遺跡の価値と保存の重要性についての理解度も引き続き高まっていると思われる。			
	課題	史跡整備作業への市民参加回数は、活動総回数3回のうちの1回を平日にしたため、参加できなかった方がいた。また、考古館ボランティアの高齢化が進み、参加回数が低下した方がいた。	史跡整備の作業に参加する市民の高齢化が止まらない。史跡公園の利用方法(禁止事項)を検討したうえで、市民等による利用促進を考える必要がある。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性	茅野市の縄文文化遺産を市民の方に理解してもらうため、考古館と並んで史跡公園の整備は今後も継続する必要がある。支障木の伐採や枝打ちは、市民や観光客が史跡公園を楽しく安全に利用していただくために欠かせないものであり、市民参加型の史跡整備作業は史跡の価値だけでなく、史跡整備の方向性を理解・共有していただくために欠かせないものである。	茅野市の縄文文化遺産を市民の方に理解してもらうため、考古館と並んで史跡公園の整備は今後も継続する必要がある。ただし、史跡公園内に史跡の価値や重要性を伝えるための解説板等が極めて少なく、伝えきれない現状がある。解説版の傷みも進んでおり、次回更新時に解説版の内容見直しや増設、QRコードによる詳細な解説を見れるようにすることが必要である。			
	内容					
策	策					
作成担当者	山科 哲	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				